

## 第2回 定期学校訪問のまとめ

佐伯教育事務所  
12/4現在 39校訪問

- 1 教育事務所の指導・支援の重点  
 (重点目標1)「子どもが動く授業」への改善・充実  
 (重点目標2)「組織的に動く学校」への改善・充実

2 把握した状況

- (1)「子どもが動く授業」への改善・充実について  
 (○…継続してほしい点、●…改善・徹底してほしい点)

観点	把握した状況
1	<p><b>【共通 条件を付けて読み書きする指導の徹底】</b></p> <p>○コラム学習や新聞記事を活用して意見文を書かせる活動、字数を制限した原稿用紙等を指定して感想等を書かせる指導が行われている。</p> <p>●予想や振り返りの場面で、既習事項や今日の学習した用語を活用して書かせる活動を位置付ける必要がある。</p>
2	<p><b>【共通 授業と宿題をつなぐ意図的・計画的な家庭学習の充実】</b></p> <p>○漢字や計算等のスキルを鍛える内容と自分で決めた学習内容とのバランスを考えながら家庭学習の課題を出している。</p> <p>○家庭との協働の視点から、宿題の時間やノートのページ数を決めて、課題を決定している。</p> <p>●宿題とすべき内容を授業始めの時間をとって復習として行っていることがある。授業と家庭学習をつなぎ、本時の主眼に至るための時間を確保する必要がある。</p>
3	<p><b>【共通 探究的・協同的な総合的な学習の時間の改善と確実な実施】</b></p> <p>○思考ツールを活用したり、グループ活動を取り入れたりしながら協同的な学習に取り組んでいる。</p> <p>○商品開発に取り組んだり、地域おこしイベントに参加したりしながら学校独自の単元展開が図られている。</p> <p>●学習のゴールが修学旅行の発表にとどまっていたり、○○新聞としてまとめたりしているだけになっており、「自己の生き方を考えることができるようにする」まで至っていない単元計画が見られる。探究的・協同的な単元計画にする必要がある。</p> <p>●課題設定が、「～を調べよう」など必然性が弱い場合が見られる。学習対象とのずれやあこがれなどから、力強い課題を設定する必要がある。</p>
4	<p><b>【小学校 2ヶ月程度を単位として評価テスト等の確実な実施】</b></p> <p>○朝学習の時間が年間何時間確保できているのか、事前に把握しておくことで計画的な学習プリントを実施している。さらにそれに基づいた評価テストを実施している。</p> <p>○評価テストから見える課題を学期末に職員で共有し、3学期の取組課題とする。さらに取組指標に位置づけ、達成のための授業改善を全職員で共通理解する。</p>
5	<p><b>【中学校 単元構想に基づいた問題解決的な展開の授業の確実な実施】</b></p> <p>○単元計画を掲示等して、生徒に単元計画やその学習内容を把握させており、各時間の位置付けを明確にしている。</p> <p>○講義式の授業から、生徒が主体的に学ぶ授業改善へ広がっている。</p> <p>●思考ツールの活用意図が不明確であったり、グループ学習での意見交換の視点がないままに実施されたりしている場合が見られる。付けたい力に即した言語活動を設定し、言語活動に即した思考ツールを活用する必要がある。</p>

(2) 「組織的に動く学校」への改善・充実について

(○…継続してほしい点、●…改善・徹底してほしい点)

観点	把握した状況
1	<b>【喫緊の課題と重点目標の一致について】</b>
	<p>○学力調査の結果分析を行い、重点目標の授業改善の視点に反映している。</p> <p>○達成指標及び取組指標に授業改善の視点を位置付け、組織的な取組を図っている。</p> <p>○重点目標の焦点化がすすんでいる。</p> <p>●学校評価とも連動させて重点的取組及び取組指標を設定する必要がある。</p>
2	<b>【児童生徒が変わる具体的な目標設定について】</b>
	<p>●日常的な授業改善につながる具体的な取組指標を設定し、授業観察シートなど用いたりして達成していく必要がある。</p> <p>●互見授業等により達成指標と重点的取組を整合させる必要がある。</p>
3	<b>【4点セットが全教職員に共有されるような会議での取り上げ方等の工夫について】</b>
	<p>○OEN、掲示物及び印刷物によって職員へ周知徹底を行っている。</p> <p>○重点目標4点セットは、会議や行事の振り返りなどの機会をとらえて意識させている。</p>
4	<b>【取組指標の状況確認と重点目標の検証改善について】</b>
	<p>○管理職は、アンケートによる月末評価を行い、進捗状況を把握している。</p> <p>○主要主任は、2ヵ月単位で進行管理を行い、重点目標達成に取り組んでいる。</p> <p>●管理職は、短期間に進行管理の集約に基づいて、さらに客観的な数値資料等の情報収集をしていく必要がある。</p>
5	<b>【学校の重点目標・分掌等目標・自己目標の連動により学校組織力向上等を</b>
	<b>図ることについて】</b>
	<p>○管理職は、目標達成のため学力向上等の部やチームによる組織をつくり、主要主任を奨励させている。</p> <p>○管理職は、月末評価や「12月までに4回の個人面談」などで、授業改善の取組を中心に面談を行っている。</p> <p>○主要主任は、OJTを推進するために職員に対する指導助言を積極的に行っている。</p> <p>○学年主任は、職員の自己申告シート中間報告の点検を行い、指導助言に当たっている。</p>
6	<b>【それぞれの重点目標達成を担う主任等の役割と責任について】</b>
	<p>○管理職は、各分掌会議に主要主任を参加させ、企画立案及び進捗状況の把握等を行い、重点目標達成に向けて取り組ませている。</p> <p>○主要主任は、取組内容を明確にして職員の意見を集約するとともに、各職員への指導助言を行っている。</p> <p>●各分掌担当の取組の共有を図り、組織的な取組をさらに進めていく必要がある。</p> <p>●主要主任自らが、各分掌の進行管理を十分行う必要がある。</p>
7	<b>【意思決定の効率的・効果的な教職員への周知・徹底の工夫について】</b>
	<p>○管理職は、主要主任に着実な取組を行わせるために組織を改め、効率化を図っている。</p> <p>○管理職は、会議等の回数を減らし、主要主任による共有ファイルや連絡黒板の活用して、職員会議によらない周知徹底をすすめ、実感をもっている学校が増えてきている。</p> <p>○管理職は、スケジュール表に議題提案者を明記し、期限を設けて取り組ませている。</p> <p>○主要主任は、職員の服務規律の状況を集約し、研修・会議等で取り扱っている。</p> <p>○運営委員会等の会議は、「1時間以内」など設定し、研修等の有効活用を行っている。</p> <p>○「学校動静掲示板」などを活用して、全職員が児童の出欠状況を把握するようにしている。</p> <p>●管理職は、運営委員会等の議題精選とともに、周知徹底とのバランスを考えた運営を行っていく必要がある。</p> <p>●職員会議が、重大事項以外にも職員の意見集約の場になっている場合がある。運営委員会と分掌会議を機能させる必要がある。</p> <p>●職員会議の時間が減っても、運営委員会や分掌会議の回数が増え、結果として子どもと向き合う時間の確保につながっていない場合もある。さらに効率化を図っていく必要がある。</p>

	ある。
8	<b>【主任制度及び手当の趣旨を伝え、主任手当拠出状況の確認について】</b>
	○総務課訪問では、主任手当の拠出状況は認められず、今後も管理職は、職員への趣旨説明を行い、徹底させていく。
	<b>【授業改善に向けた取組】</b>
	○指導教諭が教職員の授業改善に向けて個別に支援し、「自己評価票」などを使い助言している。 ○主要主任は、授業における「板書計画」や「ノート指導」などについて指導助言を積極的に行っている。 ○「週1回、授業に対する自己評価をとる」など授業改善に活かしている。 ○「授業改善5点セット」は、学力調査や児童・生徒実態に応じて修正を加え、検証指標の数値化も進んでいる。 ●主幹教諭と研究主任は、観察授業の計画等を行っているが、全教職員との課題意識の共有が必要である。 ●授業改善の取組では、日常的な取組にするために指導の回数や頻度を上げていく必要がある。 ●管理職と共に、主要主任がP D C Aサイクルや観察シート等の活用によって授業改善の取組を日常化する必要がある。
	<b>【目標協働達成に向けた取組】</b>
	○重点目標との連動を図り、「協働4点セット」を作成し、取り組む学校が出てきた。 ●家庭・地域との協働の視点を持ち、重点的取組は行っているが、取組指標を設定したり、頻度を数値化して全校作成する必要がある。

### 3. 全体を通して

<p>(1) 「子どもが動く授業」への改善・充実</p> <p>① (共通) : 目標やねらい及び主眼は構造化されているが、示された付けたい力と評価規準にずれている場合が見られる。</p> <p>② (小学校) : 国語科において、単元を貫く言語活動を位置付けた単元指導計画を作成し、指導が行われているが、並行読書の扱いや学校図書館を活用した指導において付けたい力とのずれている場合が見られる。</p> <p>③ (中学校) : 教師が一方的に説明するだけの授業ではなく、生徒が主体的に学ぶことができるように授業改善が図られてきているが、思考ツールの活用やグループ学習が付けたい力とずれている場合が見られる。</p> <p>(2) 「組織的に動く学校」への改善・充実</p> <p>①重点目標の検証・改善による焦点化は行われているが、重点的取組や取組指標と連動がうすい事例が多い。</p> <p>②運営委員会等の効率・効果的な運営の工夫は行われているが、子どもと向き合う時間に繋がっていない場合がある。</p> <p>③主要主任は各主任の連携はすすんだが、各主任と部員との連携が不十分の場合が見られる。</p>
---